

金鈴塚古墳(木更津市)

正面にマウンドがあり、説明板が建っているのが見える/東側から見たところ



南側にあるアパートの二階から見たところ/このマウンドが金鈴塚古墳(前方後円墳)の後円部の一部



これは西側から見たところ



横穴式石室の入口が見える/扉が設けられている



6世紀末の築造/奥壁寄り・石棺内・羨道付近と3回の埋葬が行われたらしい



千葉県指定文化財

金 鈴 塚 古 墳

昭和二十五年十一月三日指定

金鈴塚古墳は、小櫃川下流域の沖積平野を南北に走る、浜長須賀と呼ばれる砂丘の上に造られています。

墳丘長九十メートルと推定される前方後円墳ですが、現在は後円部の一部を残すのみです。後円部中央には南に開口する残存長九・八メートル、奥壁幅二・二メートルの横穴式石室が設けられ、内部には緑泥片岩製の組合式箱形石棺が置かれています。

金鈴塚古墳は六世紀末に造られたと考えられ、少なくとも三回の埋葬が確認されています。



金鈴塚古墳復元図 (平成25年度までの調査成果をもとに復元)

出土した遺物は、各種の金銅製品が豊富なこと、飾り大刀の種類と数が日本で一番

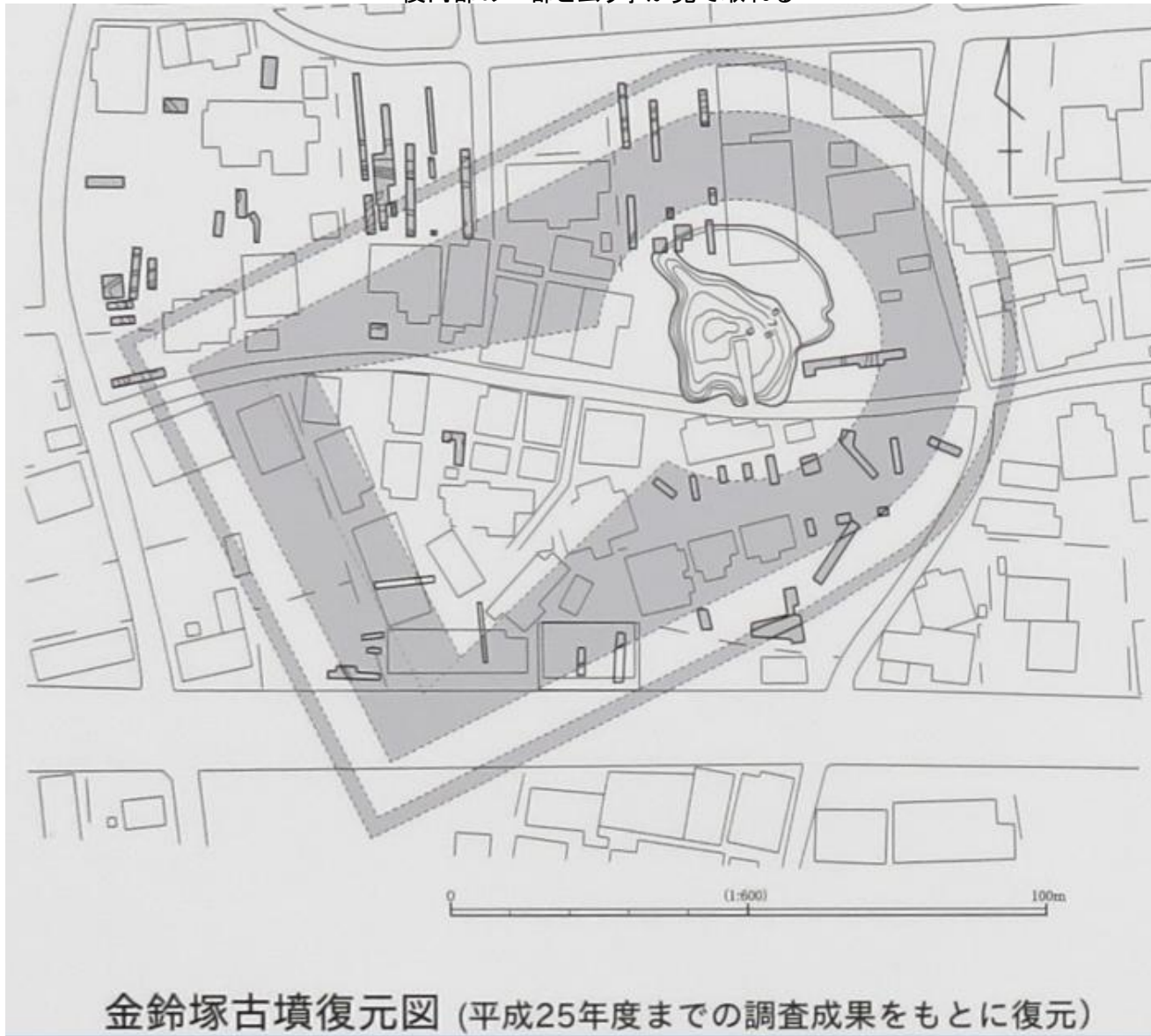
多いことなどから、この古墳に葬られた被葬者の力が大きかったことがわかります。

そのため、出土遺物は古墳時代後期の文化を示す代表的な資料として、昭和三十四年六月二十七日に国の重要文化財に指定され、木更津市郷土博物館金のすずで公開されています。

平成二十七年二月

木更津市教育委員会

後円部の一部と云う事が見て取れる



金鈴塚古墳復元図 (平成25年度までの調査成果をもとに復元)

扉は施錠されていた/中に石棺が見える



右手の羨道部分の石組を見たところで、生痕化石の残る砂岩質の岩塊(房州石)が使われている



これが緑泥片岩製の組合式箱形石棺



横穴式無袖型石室の内部/天井に向かって左右が内側に傾斜



天井石を見たところ



奥壁を見たところ



アップで上部を見たところ



同じく下部を見たところ



これは住宅の隙間から墳丘を西方向に見たところ



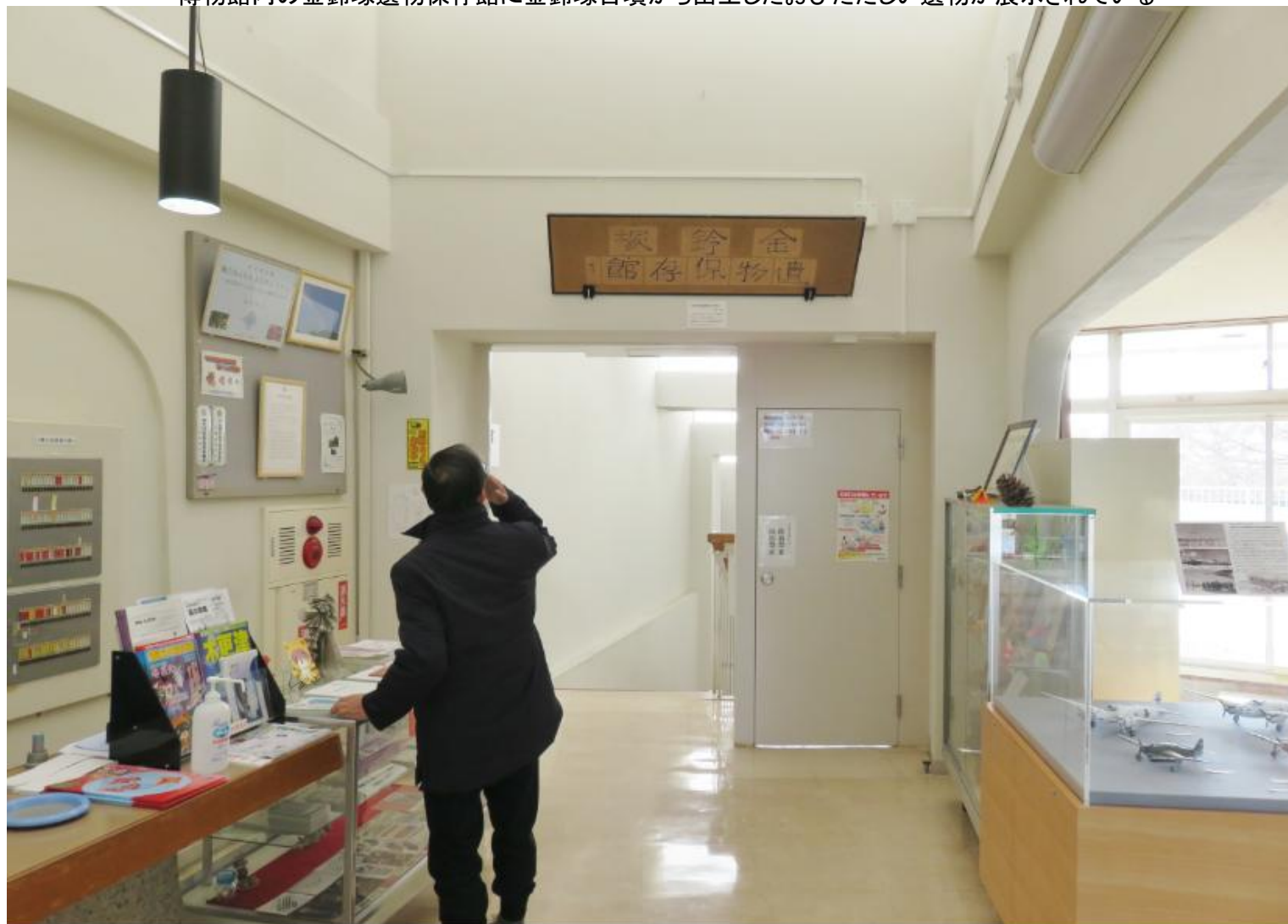
これは北側から南方向に見たところ



さて、ここは太田山公園の頂上にある木更津市郷土博物館 金の鈴



博物館内の金鈴塚遺物保存館に金鈴塚古墳から出土したおびただし遺物が展示されている



博物館の傍に建つ展望タワーから南方向を見たところ/東京湾アクアラインが見える



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/kisaradu_kinrei/

<http://massneko.hatenablog.com/entry/2014/09/17/160000>

<http://www.haniwakan.com/kenkyu/boso/kisarazu.html>

<http://obito1.web.fc2.com/kisaradu.html>

<https://ameblo.jp/2465789/entry-12343234261.html>

<https://iwatotsuchi.blogspot.jp/2011/02/f-2.html>

